

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2014年12月24日）

■第2版 第7刷(2013年2月5日発行)の修正箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758107228_corrections.pdfをご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
95	図G-4			※5参照	14/12/24
184	左カラム 8~9行目	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (グルタミン酸-----)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ： AST (グルタミン酸-----)	「AST」は太字	13/12/19
184	左カラム 10~11行目	アラニンアミノトランスフェラーゼ(グルタ ミン酸-----)	アラニンアミノトランスフェラーゼ： ALT (グ ルタミン酸-----)	「ALT」は太字	13/12/19
184	左カラム一番下 2つの反応式 ↔の上の部分	GOT ↔ GPT ↔	AST (GOT) ↔ ALT (GPT) ↔	※4も参照	13/12/19
184	右カラム 1行目	GOT 活性は肝臓と心筋、 GPT 活性は--- ---	AST (GOT) 活性は肝臓と心筋、 ALT (GPT)活性は-----		13/12/19
184	右カラム 脚注 ※1	※1 肝臓の細胞では GOT と GPT の酵素活性が高く、心筋の細胞では GOT の酵素活性が高い。従って、基準値を上回る血中 GOT と GPT の両活性値の上昇は、肝細胞の破壊を意味し、 GOT 活性値のみの上昇は心筋細胞の破壊を意味する。このように、血中 GOT と GPT 活性値の測定は、肝臓や心臓疾患の早期診断に役立っている。	※1 肝臓の細胞では AST と ALT の酵素活性が高く、心筋の細胞では AST の酵素活性が高い。従って、基準値を上回る血中 AST と ALT の両活性値の上昇は、肝細胞の破壊を意味し、 AST 活性値のみの上昇は心筋細胞の破壊を意味する。このように、血中 AST と ALT 活性値の測定は、肝臓や心臓疾患の早期診断に役立っている。	文中の GOT をすべて AST に、 GPT をすべて ALT に変換	13/12/19

図表

※4



※5

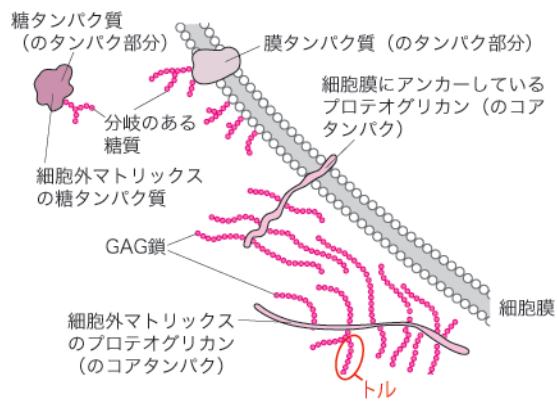


図 G-4 プロテオグリカンと糖タンパク質